

緊急時の受け入れ・対応についての調査結果集計
(短期入所事業・レスパイト事業)4～9月分

参考資料2

1. 回収状況

	短期入所	レスパイト	合計
全体	35	7	42
回答数	33	7	40

※レスパイト事業所は宿泊介護実施機関のみ

2. 集計結果(基本的情報)

①対応月別相談件数

	短期入所	レスパイト	合計
合計	147	92	239
月平均	24.5	15.3	39.8

②男女比

	短期入所	レスパイト	合計
男	92	67	159
女	51	25	76
不明	4	0	4
合計	147	92	239

③住所

	短期入所	レスパイト	合計	全体に占める割合
青葉区	35	58	93	38.9%
宮城野区	29	5	34	14.2%
若林区	9	7	16	6.7%
太白区	28	9	37	15.5%
泉区	22	13	35	14.6%
市外	14		14	5.9%
住所不定	2		2	0.8%
不明	8		8	3.3%
合計	147	92	239	100%

④年齢

	短期入所	レスパイト	合計	全体に占める割合
6歳未満	2	1	3	1.3%
6～12歳	11	23	34	14.2%
13～17歳	8	4	12	5.0%
18～29歳	54	40	94	39.3%
30～39歳	19	16	35	14.6%
40～49歳	31	7	38	15.9%
50～59歳	6	1	7	2.9%
60～64歳	4		4	1.7%
65～74歳	4		4	1.7%
75歳以上	2		2	0.8%
不明	6		6	2.5%
合計	147	92	239	100%

⑥医療的ケアの有無

	短期入所	レスパイト	合計
有	30	3	33
無	105	89	194
不明	12		12
合計	147	92	239

⑦これまでの利用状況

	短期入所	レスパイト	合計
新規	79	3	82
継続	64	88	152
1年以上支援なし	2	1	3
不明	2		2
合計	147	92	239

⑤障害種別

	短期入所	レスパイト	合計	全体に占める割合
身体	5	1	6	2.5%
知的	50	68	118	49.4%
精神	20		20	8.4%
重症心身障害	34	5	39	16.3%
発達障害	6	1	7	2.9%
高次脳機能障害	1		1	0.4%
身体+知的	5	6	11	4.6%
身体+精神	3		3	1.3%
身体+その他	1		1	0.4%
知的+精神	6		6	2.5%
知的+発達	4	9	13	5.4%
精神+発達	3	1	4	1.7%
精神+難病	1		1	0.4%
精神+その他	1		1	0.4%
身体+知的+精神	1		1	0.4%
不明	6	1	7	2.9%
合計	147	92	239	100%

⑧相談が入った時間帯

	短期入所	レスパイト	合計
22～8時		1	1
8～18時	139	87	226
18～22時	7	4	11
不明	1		1
合計	147	92	239

⑨相談ルート(どこから相談が入ったか)

	短期入所	レスパイト	合計
本人	2	1	3
家族	63	81	144
区役所	24		24
専門相談機関	16		16
児童相談所	2		2
相談支援事業所	42	8	50
障害福祉サービス事業所	5	2	7
地域包括支援センター	1		1
ケアマネジャー			0
介護保険サービス事業所			0
医療機関	3		3
学校			0
警察			0
民生委員			0
地域住民			0
その他	2		2
合計	160	92	252

3. 集計結果(緊急受け入れが必要な理由)

	短期入所	レスパイト	合計
介護者の急病、冠婚葬祭等により本人のケアができない	61	78	139
家族間トラブル等により家族の分離が必要	17	2	19
障害者本人の急な状態悪化への対応	14	2	16
近隣住民や生活上の何らかのトラブルへの対応	20	0	20
その他	43	11	54
合計	155	93	248

主たる介護者である家族の急病や入院、冠婚葬祭等により本人のケアができないものが一番多い。

その他の内容としては、介護者の介護疲れ、急な退院による一時的な居場所確保、住所不定者の居場所確保等。

4. 受入れ状況

①緊急受け入れの有無(※レスパイト事業の場合は宿泊介護に限定)

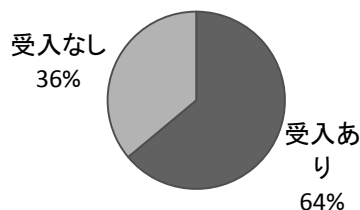
短期入所

	受入あり	受入なし	合計
合計	94	53	147
割合	63.9%	36.1%	100%

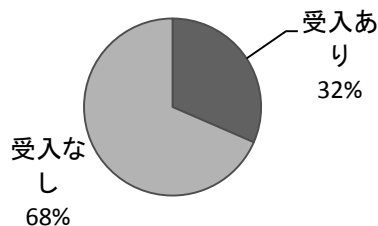
レスパイト

	受入あり	受入なし	合計
合計	29	63	92
割合	31.5%	68.5%	100%

短期入所事業の受け入れ状況



レスパイト事業の受け入れ状況



②これまでの利用状況

短期入所

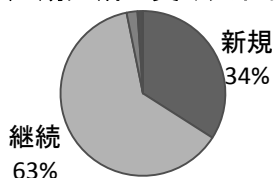
	受入あり	受入なし	合計
新規	32	47	79
継続	59	5	64
1年以上支援なし	2	0	2
不明	1	1	2
合計	94	53	147

緊急受け入れができなかった対象者は、新規利用者が多い

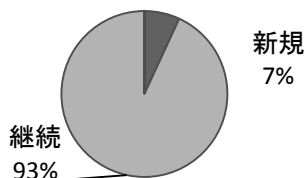
レスパイト

	受入あり	受入なし	合計
新規	2	1	3
継続	27	61	88
1年以上支援なし	0	1	1
不明	0	0	0
合計	29	63	92

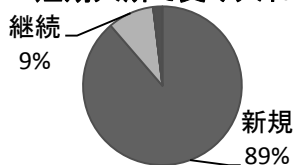
短期入所で受け入れあり



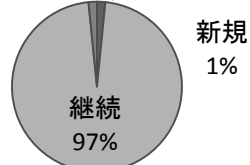
レスパイトで受け入れあり



短期入所で受け入れなし



レスパイト受け入れなし



③受け入れの有無別の月平均件数

受入あり	短期入所	レスパイト	合計
合計	94	29	123
月平均	15.7	4.8	20.5

受入なし	短期入所	レスパイト	合計
合計	53	※63	116
月平均	8.8	10.5	19.3

※日中介護で対応63件中51件

④受け入れありの場合に受け入れまでに要した日数

	短期入所	レスパイト	合計
1日	38	18	56
2日	13	4	17
3日	4	3	7
4日	3	0	3
5日	5	0	5
6日	6	1	7
7日以上	25	2	27
不明		1	1
合計	94	29	123

⑤受け入れありの場合の利用日数(泊数)

利用日数	短期入所	利用泊数	レスパイト
1日	6		
2日	19	1泊	17
3日	14	2泊	7
4日	13	3泊	1
5日	6	4泊	1
6日	6	5泊	
7日	6	6泊	
8日	7	7泊	
9日		8泊	1
10日	3	9泊	
11日	2	10泊	
12日	1	11泊	
13日		12泊	
14日	2	13泊	
15日以上	9	14泊	
		15泊以上	
記載なし			2
合計	94	合計	29

⑥利用後の行先

	短期入所	レスパイト	合計
自宅に戻った	64	27	91
別の短期入所・レスパイトに移った	11	1	12
施設入所	6		6
入院した	4		4
転居した(新たな住宅の確保)	2		2
その他	4		4
記載なし	3	1	4
合計	94	29	123

⑦対応に苦慮した点、課題に感じたこと等

(支援上の課題)

- ・利用歴がなく状況が分からない方の受け入れ(本人の障害特性・支援情報の把握、年齢に応じた対応、ケア方法の引継ぎが必要)
- ・本人が環境になれず不安定になった場合の対応(事前の体験利用が重要)
- ・長期利用が本人のストレスになり不安定行動が出現(緊急前に複数施設で事前練習を行い慣れる事が必要)
- ・本人の問題行動への対応(寂しさから壁に頭を打ち付ける、声を上げる、自分に注意を向けて欲しいための行動への対応、備品のラベルをはがす、他者への強い関心等)
- ・急な利用のため持ち物も薬もなく、家族への連絡が取れない、相談機関の付き添いもない方の受け入れには不安を感じた
- ・主たる介護者以外に日常的に関わっている方がおらず、最近の様子について客観的な把握ができなかった

(運営上の課題)

- ・急な受け入れのための調整・夜間も含めた人員体制・ベットの確保
- ・長期利用の調整が困難。他利用者に制限がかかってしまう。職員体制の確保の難しさもあり
- ・連泊する場合の介護人の確保、希望日が一日ずれただけで調整が困難(レスパイト)
- ・予約が多い週末の受け入れ調整、職員体制の確保も困難
- ・医療的ケアが必要な場合や介護度が高い方を受け入れる場合の体制確保。(介護度が高い対象者の場合、通常の職員配置に加え、一時的に応援体制を組む必要がある)
- ・宿泊ができ障害特性を考慮し対応できる男性介護人の確保。
- ・送迎に対応できない(短期入所)

5. 緊急受入れができなかった理由

①緊急受け入れを断った理由

	短期入所	レスパイト	合計
施設側の理由(空床がない)	10	3	13
施設側の理由(職員体制)	5	7	12
施設側の理由(設備体制)	2		2
施設側の理由(その他)	5		5
本人側の理由(必要なケアに対応できない)		1	1
本人側の理由(他利用者へ与える影響)	2		2
本人側の理由(その他)	21	10	31
他の利用者の状況による			0
その他	5	40	45
記載なし	3	2	5
合計	53	63	116

②理由(その他)の詳細

施設側の理由(その他)
<ul style="list-style-type: none"> ・施設入居者は高齢であるのに対して、利用希望者の年齢が若いこと、本人の状況がよく分からないため。 ・本人に暴力行為があるため。 ・施設の雨漏りのため
本人側の理由(その他)
<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ可能であったが、他の施設・サービス(短期入所・レスパイト)を利用することになった。 ・介護者が早めに退院することになったため、キャンセルされた。 ・精神科への入院が決まった。 ・緊急連絡先を確認したところ本人側からキャンセルされた。 ・本人が外泊を拒否した。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・管理者不在のため、帰所予定時刻に再度連絡頂く予定だったが、連絡がなかった。 ・見学を勧めたが連絡が来なかった。 ・医療的ケアが必要な新規利用者であり、面談のち後日の予約とした。

63件のうち日中介護で対応した51件の理由

- ・宿泊介護に対応できる職員体制が取れなかった。
- ・日中介護で対応。宿泊までの希望がなかったため。
- ・これまでの利用経験が浅く、本人が施設に慣れていないため。
- ・宿泊日数が上限を超えそうだったため、宿泊ではなく、夜就寝前までの一時介護を提案し、一時介護で対応
- ・日中は父が仕事であることから日中のみの対応で可能であったため。

③どのような体制があれば、緊急受け入れが担えるか(自由記載)

(支援に関すること)

- ・長期であるため職員体制がとれなかったが、施設側の職員体制だけでなく、家族との連携がうまく出来るケースであれば全部ではなくとも対応できる日数はあった
- ・依頼側の連絡体制や、何かあった場合の協力が頂けたら、受け入れが出来た。
- ・緊急時に備えた事前からの利用があれば受け入れやすい。利用経験が浅く(環境に慣れていない)、自宅環境が落ち着かない中での緊急受け入れだったため、さらに慣れない環境で過ごすことになり、本人の不穏が顕著だった。そうならないよう、登録者へは緊急時に備えた利用の呼びかけをしている。
- ・受け入れ直前の30分～1時間でも、ご家族との最低限必要なご本人の情報共有が出来れば受け入れはできた。(必要な事前アセスメントの時間が確保できず断った事例)
- ・てんかん発作が続いた際、通院の必要がある方であるが、当園では付添いは行っておらず、母親が県外で対応困難であった。緊急時の通院対応が保護者が困難である場合は、保護者に代る第3の存在・もしくは機関があるとよい。
- ・集団生活が難しい方への受け入れ体制の支援
- ・緊急時に情報が十分ではなくとも、臨機応変に判断し対応できる職員・支援員の体制確保。

(運営上の体制)

- ・緊急時は本人に対応する準備(情報や介護経験)が十分ない場合がある。臨機応変に判断し対応できる職員体制を確保できるとよい。
- 宿泊利用を毎日受け入れるに足る職員体制が整えられること。(※職員一人が週に1泊すると仮定すると、最低でも7名必要)
- ・宿泊できる男性介護人の確保。

6. 稼働状況(稼働状況調査票より算出)

平均稼働率

	月平均稼働率	※回答があった短期入所事業所のうち空床利用型以外の事業所(単独型・併設型)の稼働率の平均
短期入所	44.50%	
レスパイト	47.10%	※宿泊介護を実施しているレスパイト事業所分のみ(泊数を利用日数に換算して算出)